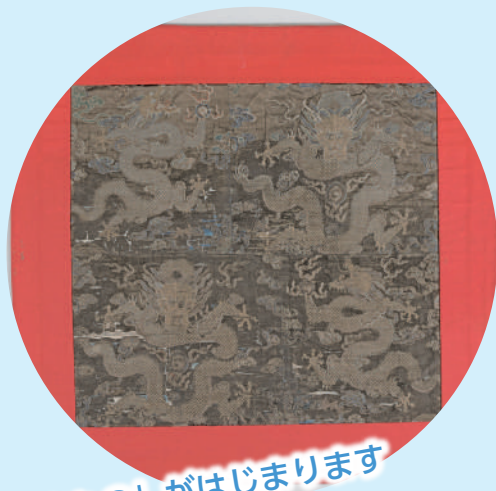


みえんしす 52号



1P▶4P **特集** 第43回企画展
「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」がはじまります



4P 特別展・第42回企画展
「ポケモン化石博物館」、開幕27日で
30,000人来ていただきました!

ミュージアム
レポート
Museum Report



5・6P
守屋館長が退任します!



第43回企画展

「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」がはじまります



企画展のチラシを手にする福田学芸員

MieMuで、まつりの展示がはじまります

第43回企画展「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」について、担当している福田良彦学芸員（民俗学）に聞きました。

まつりと福田学芸員の出会い

—福田さんがまつりに注目したきっかけについて、お聞かせください。

福田：実は私は、今から30年以上前、三重県教育委員会では民俗文化財の担当をしていました。その時、まつりというものが地域の社会にとって大変大きな意味をもっていることを実感しました。

—実感したということですが、何か具体的な出来事があったのですか？

福田：当時、まつりの調査に行ったときに、老若男女が一丸となって盛りあがっている町がある一方で、となりの町ではお年寄りが1人で植木の水やりをしている姿を見たことがありました。実は、このとなりの町は戦災でまつりの道具が失われた地域でした。まつりの道具の残存状況や、まつり自体が継承されるか否かで、地域の方々の生活やコミュニティの様子もかなり変わってくるのではないかと感じたのでした。

—この時の体験が衝撃的だったわけですね。

福田：実際、民俗やまつりの研究に対して本腰を入れたのは、その時からだと思っています。また、

私がMieMuに着任してすぐに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、全国的にもまつりが休止となる話も多く気になっていました。そして、令和8(2026)年がユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」登録10周年を迎えるということで、この機会に県内でユネスコ登録されている3つのまつりと、県内に数多くの伝承があるかんこ踊り、獅子舞をあわせて紹介し、広く知っていただく機会とするためにこの企画展を計画しました。

山・鉾・屋台行事の展示について

—山・鉾・屋台が目玉となるかと思いますが、どのような資料が展示されるのですか。

福田：まず、ユネスコ登録のまつりでは、「桑名石取祭の祭車行事（桑名市）」で使用されている石取祭車の彫刻や、「鳥出神社の鯨船行事（四日市市）」の鯨船山車を飾る部材、「上野天神祭のダンジリ行事（伊賀市）」で使用される楼車を装飾している幕などを展示します。上野天神祭の楼車の幕ですが、現在は使われていない幕（地元では「引退幕」などと呼ばれています）を展示します。

—幕の調査も色々されていきましたね。

福田：これらの幕は江戸時代に制作されたもので楼車蔵などにしまわれているため、普段は地元の方も見ることはほとんどありません。ほぼすべての引退幕の調査・撮影、保存会を9町すべての協力を得て、行うことが出来ました。例えば、上野西町の雲龍文の幕があるのですが、かなり前から使われていない幕で、一般的に「蝦夷錦」とよばれている中国からもたらされた布を使ったもので



上野西町楼車前幕「雲龍文」（後期展示）



上野福居町楼車天水水引幕「雲龍図」 上：表 下：裏

あろうことはおぼろげながらわかっていました。しかし、今回詳細に調査したところ、素材に清朝初期の高位の官人の官服が仕立て直されたものが使われており、大変貴重なものであることがわかりました。

展示だからこそ観られる品

福田：また、上野天神祭では、幕の裏側に美しい更紗を使う事例があります。まつり際には、幕の裏側はチラリと見えるだけでじっくりと見ることはできませんので、今回の展示でご覧いただきたいと思います。

—裏にも、細やかな意匠が施されているんですね。江戸時代の伊賀の人びとの細やかな美意識を感じることが出来るわけですね。

福田：桑名石取祭の祭車については、戦災を免れ



西船馬町石取祭祭車彫刻 力神 桑名市指定有形民俗文化財



長太鯨船山車旧部材 船名板



富田中島組鯨船山車屋根幕

た貴重な彫刻を展示します（西船馬町石取祭車彫刻）。これは、愛知県にもその作例が多く伝わる信濃国（現長野県）の立川和四郎という人物の、文久2（1862）年の迫力のある作となります。また、四日市市富田の鳥出神社の鯨船行事では、鯨船の部材が入った箱書の調査を行いましたので、その成果を踏まえて展示いたします。

調査の成果と地元の方のご協力

—今回の展示のためにいろいろな調査を行ってきたと思いますが、いかがでしょうか。

福田：鳥出神社の鯨船行事は4隻の鯨船が出る大規模なまつりですが、これらの鯨船の部材を収納する箱に幕末や明治の年号が書いてあることを再確認できました。箱書があることは知られていたのですが、その全体像は誰も調査していませんでした。この調査によって、4隻の鯨船が幾世代にもわたり、修理や新調を繰り返して、大切にされてきたことがよくわかりました。過去のMieMuの展示の調査で発見された四日市市の諏訪神社祭礼で使われていた、現存最古と思われる鈴鹿市長太の鯨船部材も展示します。時代を経るごとに、鯨船山車がどんどん豪華になっていく様子を感じていただけたらと思います。また、桑名石取祭の祭車についても、幕末に作られた貴重な彫刻の記録撮影を行いました。これも、まつりで使用されている時の写真は当然あるのですが、今回は資料の記録として、彫刻の様子がよくわかるように撮影を行

第43回企画展

「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」

日時：4月25日(土)～6月21日(日)

休館日は毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)
9時～17時(最終入場は16時30分まで)

会場：MieMu 3階企画展示室

観覧料：※()は20名以上の団体料金

【企画展のみ】

一般800(640)円、学生480(380)円、高校生以下無料

【基本展示とのセット券】

一般1,050(840)円、学生630(500)円、高校生以下無料

展示の入れ替えについて

前期展示 4月25日(土)～5月24日(日)

後期展示 5月26日(火)～6月21日(日)

民俗芸能特別公演など当日受付のイベントも盛りだくさんです。

詳しくは当館HPをご覧ください。





左：上野小玉町楼車見送幕「朝鮮通信使図」（前期展示）
右：上野新町楼車見送幕「蘭人嬉遊図」（後期展示）



上：津八幡宮祭礼の唐人面（石水博物館 唐人踊面）
中：旧久居町の練物の唐人
（個人蔵 旧久居城下町の練物絵巻・前期展示後期展示で場面替あり）
下：東玉垣町唐人踊りの面（東玉垣町第一自治会）

いました。これらの調査は、地域の皆様のご協力がなければ実現不可能なものでした。これらの写真などは図録に掲載しております。

—図録の写真一つ一つには、地域の皆さんの温かい協力がつまっているわけですね。

福田：皆さんお仕事もある中で、お休みの日に数々のご対応をいただいたことを思い出しますと、たいへん頭が下がるところで、感謝の念に堪えません。

海外の事物を伝えるまつり、初公開の資料も

—山・鉾・屋台行事だけではなく唐人踊りなども取り上げるんですよ。

福田：唐人踊りが、江戸時代に海を越えて日本にやってきた朝鮮通信使の影響を受けていることは割合知られていますが、実は楼車の幕にも海外の文物を感じることが出来るものがあります。先ほど紹介した上野西町楼車前幕「雲龍文」だけではなく、楼車の後ろ側につける見送幕にも異国への好奇心を感じさせるものがあります。

—まつりという華やかな場では、やはりそのような異国から伝わった特別なものが大切になってくるんですね。

福田：秋の津まつりや、鈴鹿市東玉垣町の春まつりで行われている唐人踊りに関する資料も展示します。また、これまで知られていなかった旧久居町（現津市）の練物絵巻にも唐人が描かれています（唐人の場面は後期展示）。初公開の資料ですので、是非注目してほしいと思います。

—津、久居、鈴鹿市の玉垣ということで、江戸時代の藤堂家が治めていた領域での文化のひろがりを感じさせてくれますね。続いて、かんこ踊りや獅子舞についてはいかがでしょうか。

三重県を特徴づけるかんこ踊りと獅子舞

福田：かんこ踊りについては、現在行われていないものも含めて県内200か所以上で伝承がある三重県を特徴づける民俗芸能です。かんこ踊りは、雨乞祈願や、初盆供養などを目的としたまつり



伊奈富神社獅子頭 三重県指定有形文化財



茜社獅子頭 三重県指定有形文化財

特別展・第42回企画展 「ポケモン化石博物館」、開幕27日で 30,000人お越しいただきました！

MieMuで「ポケモン化石博物館」展示開催中

MieMuでは令和8(2026)年4月5日(日)までポケモン化石博物館を開催しています。

30,000人達成の様子



1月17日(土)の開催初日から沢山の方に足を運んで頂き、開幕27日目となる2月17日(火)に30,000人を達成しました。30,000人目となったのは四日市市からお越しのご家族で、守屋館長から記念品が贈呈されました。以前岐阜県で開催された「ポケモン化石博物館」をご覧になっており、三重県でも開催されるということを知り、ご来館いただいたとのことでした。

国内最後の展示となります！

これまで、MieMuを含めて15の博物館や美術館で巡回してきましたが、MieMuは国内最後の会場となります。ぜひ、「ポケモン化石博物館」をお楽しみください。

(担当 甲斐由香里)



実際のまつりの様子
上：円座羯鼓踊（伊勢市）
下：勝手神社の神事踊（伊賀市）

で、胸にかんこと呼ばれる桶胴太鼓を付けてたたきながら集団で踊ります。ただ、装束や伝承されている曲も地域によって全く異なります。三重の多様なかんこ踊りの姿を見ていただければと思います。伊賀の勝手神社の神事踊（伊賀市）は、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」に登録されています。

福田：また、三重県の獅子舞は地域的な特色があり、全国的にみても獅子舞のルーツの1つとして知られています。県内には、現在行われていないものも含めて200か所以上の伝承があります。今回三重県最古である鎌倉時代の伊奈富神社（鈴鹿市）の獅子頭や、永禄2(1559)年の茜社（伊勢市）の獅子頭も展示します。

みなさんにお伝えしたいこと

— 展示内容は盛りだくさんですが、イベントも多数あるんですよ。

福田：企画展期間中MieMuにて、獅子舞やかんこ踊りなど様々な民俗芸能をご披露いただきます。詳しくはMieMuのHPをご覧ください。展示する資料も貴重な三重の宝ものですが、それを伝えて来た地域のコミュニティ自体が宝ものだと思います。

企画展終了後、夏から秋にかけて、まさに三重のまつりのシーズンがやってきます。この展示をきっかけとして三重県のいろいろなまつりを旅していただければと思います。

福田 良彦

専門分野は民俗学で、三重県をフィールドに祭礼や民俗行事、諸職等様々な調査を行ってきました。また、住民が主体となり、地域全体を博物館ととらえるエコミュージアムにも関わってきました。



ポケモン化石博物館について
詳しくはHPをご覧ください



守屋館長が退任します！



館長室にて

守屋館長にインタビュー

令和8(2026)年3月で退任される守屋和幸館長に、この5年間の感想を聞きました。

—5年前のMieMu着任時の、思い出からどうぞ。

守屋館長：着任する前は、約40年にわたり大学で過ごしてきました。そのため、着任後はMieMuの学芸員・職員の皆さんに支えていただき、この5年間で博物館の活動や役割について多くを学ぶことができました。大変貴重な経験となりました。心より感謝申し上げます。

—館長着任の時期は新型コロナウイルス感染拡大の時期にあたり、行事の時期を変更したりとさまざまな状況に対処されていましたが、そのような時期も含めて、5年間三重県で暮らした、感想や思い出をお願いします。

守屋館長：三重県は、自然、歴史、文化のいずれも豊かで、本当に魅力あふれる土地だと感じています。この5年間で県内のさまざまな場所を訪れ、改めて三重県の魅力に触れることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

—館長の任期中には、昨年度の「金曜ロードショーとジブリ展」などと大変多くのお客様をお迎えした企画展もありました。

守屋館長：博物館は社会教育の場であると同時に、多くの方に楽しんでいただく場所でもあります。MieMuでは、三重県の自然と歴史・文化をテーマにした企画展に加え、「金曜ロードショーとジブリ展」や「ポケモン化石博物館」などの全国巡回展も誘致し、エンターテインメント性のある展示も提供してきました。今後の企画展や特別展にも、ぜひご期待いただければと思います。

—MieMuでは開館以来、館長が講座を開いて直接来館者とふれあう館長講座がありますが、「牛肉が食卓に届くまで」、「ウシとライオンはどう違う?」、「宇宙からわが街を見てみよう」と専門の肉牛を起点にさまざまな講座をしていただきました。今、思えばどうでしたか。

守屋館長：この5年間で、館長講座として3つの講座を担当しました。どの講座も、馴染みのある題材を取り上げながら、新たな発見や知的好奇心を引き出すよう工夫したつもりですが、皆さんにとってもかぎでしたでしょうか。館長講座に限らず、MieMuでは多くのワークショップや講演会を開催しています。ぜひ、ご自身の興味や関心に合ったものに参加していただき、知的好奇心を満たしていただければ幸いです。

—退任後も、MieMuの活動を温かく見守ってください。ありがとうございました。



羽ばたいていく館長
（「さわって体験する鳥の体のひみつ」
アウトリーチキットのワークショップで）

館長講座「ウシとライオンはどう違う？」

主に、小学校中・低学年を対象としたワークショップです。まず、10種類の動物(ウシ、ヒツジ、ゾウ、キリン、ラクダ、ウマ、イヌ、ネコ、ライオン、トラ)の写真を見て、いくつかのグループに分けてもらいます。次に正面から撮った顔写真と足の裏を撮った写真をじっくりと見て2つのグループに分けます。さらに、一方のグループの口の拡大写真、とくに前歯の特徴からウシ、ヒツジ、ゾウ、キリン、ラクダが1つのグループになることを見つけていきます。このように新たな情報が加わるごとにグループの特徴がより明確になることを体験してもらおうワークショップでした。



講座の様子

館長講座「牛肉が食卓に届くまで」

三重県は松阪牛、伊賀牛という全国的に有名な牛肉の生産県です。この講座ではウシの栄養生理を題材として、栄養の摂り方や微生物との共生関係など、反芻動物の特徴の解説から始め、高級和牛肉が食卓に届くまでの生産過程を順を追って紹介しました。また、ウシに個体識別番号をつけて、国産牛の「生産・飼育・加工・流通・販売」の各段階における履歴情報を追跡・管理する制度である、牛トレーサビリティ事業の概要や、食卓に安全・安心な牛肉を届けるための生産者の努力などについても紹介しました。



講座の様子

「MieMu@ほーむ」として Youtubeで公開中

スタッフによる基本展示室紹介「へえーそうなんや!三重」では三重県全体の概説を担当

基本展示室紹介「三重はこんなところ」2022年ver.



第35回企画展「鳥のひみつ調べ隊!」(令和5年10月~12月)では火おこしの名人として動画に登場

学芸員ミニ講座「おいしいとり焼のできるまで」



みえむの



たきがわ かずや (せせ)



MieMu からのお知らせ

利用案内

■ 利用時間

9時～17時
(基本展示室、企画展示室の最終入場は、閉館30分前まで)

■ 休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、
年末年始(12/29～1/3)、
その他別途定める日

■ 観覧料

基本展示室 一般 520円(410円) 学生 310円(240円)
高校生以下無料 ※()内は団体料金

企画展示 展覧会ごとに別途料金を定めます。
詳しくは各展覧会のお知らせをご覧ください。

年間パスポート 一般 1,670円 学生 1,040円
※障がいをお持ちの方のご見学についても、お気軽に館内スタッフへご相談ください。
お電話での事前のご相談も承ります。



MieMu みえむ | 三重県総合博物館

三重県津市一身田上津部田3060(三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp
HP <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>
X (旧Twitter) @mie_pref_museum
facebook @mie.pref.museum
Instagram miemu2014
YouTube <https://www.youtube.com/@MieMu>



三重県総合文化センター

春のそらぶんにいこうよ！ こいのぼりがいっぱい！！

工事休館明けの5月。端午の節句に合わせてこいのぼりを掲揚し、来館の皆様をお出迎えします。100匹を超えるこいのぼりが一斉に青空を彩る姿は壮観！さらに、エントランスでは屋敷を泳ぐこいのぼりを間近に見ることができます。期間中、そらぶんとMieMuを巡ってクイズに挑戦するとプレゼントがもらえますよ。掲揚するこいのぼりは全て、県内外の皆さまから寄贈していただいたものです。お家に眠っているこいのぼりがありましたら、ぜひそらぶんにお譲りください。



期間 5月1日(金)～5月17日(日)
※見学自由

会場 三重県総合文化センター
メインエントランス・知識の広場・祝祭広場

問い合わせ先

三重県総合文化センター 総務部
津市一身田上津部田1234
Tel 059-233-1105
Fax 059-233-1106

URL <https://www.center-mie.or.jp/>

三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレんてみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合施設です。



三重県立図書館

電子書籍サービスがはじまりました

お手持ちのパソコンやスマートフォンなどから、24時間いつでもどこでも電子書籍を読むことができるようになりました。ビジネス、医療・健康に関する分野の専門書や辞書・辞典を中心に約1,100冊の本を読むことができます。



利用方法

1. 県立図書館ホームページからMyライブラリへログイン
2. [KinoDen] のバナーをクリック
3. 読みたい本を自由に読みいただけます

その他

電子書籍サービスを利用するには図書館の利用カード(番号)とパスワードが必要となります。利用カード(番号)、パスワードの発行はオンラインでの申請も可能です。詳しくは三重県立図書館のホームページをご確認ください。

問い合わせ先

三重県津市一身田上津部田1234
Tel 059-233-1180
Fax 059-233-1190

開館時間: 4月30日まで 9時～17時
5月以降 9時～19時

休館日: 月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、月末(土日祝日の場合は、その直前の平日)、年末年始、特別整理期間



三重県立美術館

三重県誕生150周年記念 生誕100年 榊莫山展



《寒山拾得》1994年

大胆な一字書や詩情豊かな詩書画一体の作品、異分野の芸術家との合作など、多彩な活動を展開した伊賀出身の榊莫山。当館は、2011年に生前の作家の意思に基づき、108点の作品寄贈を受けました。今回の展覧会では、これらの作品を一挙公開し、三重県誕生150周年の節目に、三重の自然や風物から生まれた榊莫山の芸術世界に迫ります。

期間 令和8年4月4日(土)～5月31日(日)まで

観覧料 一般800円 学生600円
※高校生以下無料

ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン美術館所蔵 ロックフェラー・コレクション花鳥版画展 北斎、広重を中心に

アメリカのロードアイランド・スクール・オブ・デザイン美術館が所蔵する、アビー・オルドリッチ・ロックフェラー収集・寄贈の花鳥版画コレクションの中から、葛飾北斎や歌川広重の作品を中心に、選りすぐりの163点を公開します。

期間 6月13日(土)～7月26日(日)まで

観覧料 一般1,200円 学生1,000円
※高校生以下無料

会場 三重県立美術館 企画展示室

問い合わせ先 三重県津市大谷町11

Tel 059-227-2100(代表)

Fax 059-223-0570

開館時間: 9時30分～17時

(入館は16時30分まで)

休館日: 月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、年末年始



三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県では、歴史資料として重要な公文書等を“特定歴史公文書等”として三重県総合博物館で保存しており、利用申請手続きにより、総合博物館内の資料閲覧室でご利用いただくことができます。また、資料閲覧室では、定期的に特定歴史公文書等の企画展示も行っています。詳しくはHPをご覧ください。

URL <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/000236866.htm> 問い合わせ先 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班
三重県津市一身田上津部田3060 総合博物館3階 Tel 059-253-3690 Fax 059-229-8310



三重県総合博物館情報誌「みえんしす」

「三重の」を、生物に与えられる世界共通の名前である「学名」であらわすと「miensis=みえんしす」となります。この情報誌「みえんしす」は、博物館でもよく使われる学名にちなんであられました。生物だけでなく、博物館が発信する様々な「三重の」をこめて。

発行日: 2026年3月13日(禁・無断転載)
企画・編集・発行: 三重県総合博物館
印刷: 有限会社ミフジ印刷